建設常任委員会管内視察報告書

西宮市議会議長　大石　伸雄　様

令和２年（2020 年）３月 11 日

■視察日時　　令和２年（2020 年）２月４日（火）
午前 10 時から午前 11 時 40 分まで

■視察委員　　委 員 長　　松山　かつのり
副委員長　　よつや　　薫
委　　員　　岩　下　　彰
〃　　河　本　圭　司
〃　　草　加　智　清
〃　　坂　上　　明
〃　　多　田　　裕
〃　　八　代　毅　利

■視察先　　武庫女ステーションキャンパス（鳴尾・武庫川女子大前駅の高架下）

■視察事項　　駅高架下の空間活用について

■視察先対応者

武庫川女子大学
武庫川女子大学教授・博士（工学）
生活環境学部長・研究科長　　三好　庸隆
武庫川女子大学事業部事業課長　　大路　　巧

阪神電気鉄道株式会社
経営企画室課長　　辻井　浩二

西宮市
土木局道路部道路計画課長　　山口　芳生
土木局道路部道路計画課係長　　川口　秀樹

■視察概要

学校法人武庫川学院は 2019 年に 80 周年、武庫川女子大学としては 70 周年を迎え、西宮市でも歴史のある教育機関として、鳴尾地域に根ざしてきました。

鳴尾地域にある鳴尾・武庫川女子大前駅は、学生や教職員等の関係者が最寄り駅として利用し、学生が通う駅として役割を果たしてきました。

一方、鳴尾駅周辺は小曽根線や 43 号線から阪神電鉄を横断する車両などで慢性的な渋滞があるといった地域としての課題もありました。

この交通渋滞解消のため兵庫県の都市計画事業「阪神本線連続立体交差事業（鳴尾工区）」が 2003 年度から始まり、2017 年 3 月 18 日に開通しました。

この高架事業に伴い、地域の活性化を目指す阪神電鉄と地域貢献を果たしてきた大学側が高架下のスペースの活用について、共同で進めることになり、大学側は学生の街として積極的に関わってきた経緯があり、そこで白羽の矢が立ったのが本日講義をいただいた三好先生でした。

まず最初に仕組み作りとして、①「鳴尾駅及び周辺地域活性化研究会」を立ち上げて大所高所からイメージを考えていく、阪神電鉄側と大学側の現場に携わる方で構成し、お互いの情報や意思が上層部に伝わるようにすること、②西宮市として高架事業と土地区画整理事業が同時に進行していたため、市と調整する場を設けることを行いました。そして、平成 27 年度の調査研究から始まり、令和元年 10 月に全国初となる鉄道駅の高架下の空間に「武庫女ステーションキャンパス」が武庫川学院創立 80 周年の記念事業として開設されました。

この活用方法については阪神電鉄も初めてのケースで、とても景観に配慮したデザインとなっていて、現在も駅舎を中心に周辺では開発が進んでおり、まだまだ魅力ある街づくりが進むものと期待が持てます。

また駅名も「鳴尾駅」から新たに、「鳴尾・武庫川女子大前駅」に変更しました。これは阪神電鉄と武庫川学院の長い歴史から培われた信頼からくるもので、ネーミングライツでないところも互いに地域に根ざそうとする信頼関係を十分に感じることができました。

■意見・感想

第一印象は外観や各部屋の空間がとても明るいといったことが、学生の街としてふさわしい賑わいを創出した感じがしました。

また三好先生のこだわりが随所に表現されていました。例えば、南側の駅前公園の整備によって北側が駅の裏側のようになるのを避けるため、南と北を連絡させる通路を作ったり、公園のイベント等で放送する放送スタジオを見えるかたちで設置したり、緑を基調とした樹木オリーブを植樹したりするなど視察をすることでしかわかり得ないことが随所にありました。

中でも目を引くものは、「アネックスⅠ、Ⅱ」です。「アネックスⅠ」では、学生・教職員のための健康維持・増進施設として本年４月から開設し、将来的には地域の方にも開放する施設になる予定とのことです。また「アネックスⅡ」は令和２年４月に開設予定で、その機能は学生の学びの場と地域貢献を目的とした「訪問看護ステーション」となり、女子大学の初の取り組みとして、あらたな教育の空間となります。

この他にも銀行のロビー空間を閉店後も開放して、住民や学生の交流拠点として活用してもらう取り組みなど、西宮市の新たな空間ができたと言えます。

最後に、私たちの「地域コミュニティにおいての役割」の質問に対し、次の引用を紹介されました。

「大学が地域に貢献しようとする際、あくまでも地域の取組みの主体は住民であり、それを大学は支援するという姿勢を堅持することがまず重要である。地域側の主体性がなければ地域の課題解決は達成されない。また、大学の地域に対する支援が長期に渡る場合、地域の主体的な発展を阻害する可能性もある。大学には教育、研究のミッションがあり、地域貢献のために割きうるリソースは限られているから、地域内外の様々な組織と連携・分担して取り組むことが有用である。

また、大学自身の優先度や容量も踏まえて、大学として重視する地域貢献の対象や範囲について理念や方針を検討していくことも重要である。その上で、地域の事情に応じて柔軟な対応を行うよう努める必要がある。」

（引用元：研究会報告書等 No.74「大学等の知と人材を活用した持続可能な地方の創生に関する研究会報告書」）

今回の駅舎高架下の全国初となる大学のキャンパスで注目しましたが、その思想には地域貢献に対する思いを詰めた取り組みとなったことは、参考になりました。

これからの本市事業を遂行する際にも重要な視点であると学んでまいりました。

■視察風景

◀武庫女ステーションキャンパス内の
　レクチャールーム
こちらで講義を受けました。ここでは「武庫川女子大学オープンカレッジ」等平日の利用率も高く、鳴尾地区における地域交流の場所の一つとして位置づけています。
また隣の「Lavy's Café」を利用し、懇親会としても利用ができるなど、明るく清潔な空間です。

「知るカフェ」前▶
このカフェは学生証を持っている人しか利用できないカフェで利用者は原則無料です。運営は各企業の協賛でまかなっており、企業はリクルートとして情報を提供するなど双方の利点を活かしています。近年では大学の近くに「知るカフェ」が開設されるところも増えています。